

# 専門知識と技術でケア

## 市立伊丹病院看護師を紹介

市立伊丹病院は、安全で質の高い看護を提供するため、専門分野に特化した看護職員が医師などと連携し、患者や家族のケア、サポートなどを行っています。さまざまな疾病に対する専門的な知識と技術でケアを行う看護師が皆さんを支援します。問い合わせは市立伊丹病院看護部 ☎777-3773へ。

オムツの使い方を説明する皮膚・排泄ケア認定看護師



市立伊丹病院に在籍している専門・認定看護師の分野一覧

専門看護師	認定看護師		認定看護管理者
がん看護	救急看護	摂食・嚥下障害看護	
	皮膚・排泄ケア	感染管理	
	集中ケア	認知症看護	
慢性疾患看護	緩和ケア	慢性呼吸器疾患看護	
	がん性疼痛看護	慢性心不全看護	
	手術看護		

### 専門看護師と認定看護師

市立伊丹病院には、看護師や助産師の資格を持ちながら、さらに分野ごとの専門的な資格を持った看護師が勤務しています。その一部である「専門看護師」と「認定看護師」を紹介します。

専門看護師と認定看護師は、医療の高度化や専門化に伴い、一定の専門分野について教育を受け、業務が円滑に実施できるよう看護師を育成するために設けられた制度です。

日本看護協会が認定する資格認定制度により資格を取った後も5年ごとに認定更新を行います。同院には左表の分野の看護師が勤務しています。

### 専門看護師とは

専門看護師は、2年間の教育課程を修了して、専門分野の知識と技術に広がりがあると認められた人のことです。同院には、がん看護専門看護師と慢性疾患看護専門看護師が在籍しています。

### 認定看護師とは

認定看護師は、半年から1年の教育課程を修了して、専門分野において熟練した看護技術と知識を有するものとして認められた人のことです。同院には、11領域、13人の認定看護師が在籍しています。

## 認定看護管理者と専門・認定看護師の役割

### 認定看護管理者

認定看護管理者は、質の高い組織的看護サービスを提供することを旨とする看護管理者です。市立伊丹病院では、令和7

年度の統合新病院の開院に向け、専門分野に特化した看護師を含め、全ての看護師が連携を図りながらチーム医療の構築を進めていきます。

### がん看護専門看護師

がん医療の進歩に伴い、生存率は上昇しています。一方で、がん診断された不安になったり治療による副作用によってこれまでの生活を変えざるを得なかったり、経済的な問題が発生したり、仕事との両立に悩むなど、がんに罹患することでさまざまな問題が発生することがあります。

がん看護専門看護師は、がんを抱えている人や、家族、地域の人の対して、治療を含めた生活の中での困りごとや相談について、医師や病院のスタッフ、訪問看護師などと一緒に考えていく手助けを行っています。

### 皮膚・排泄ケア認定看護師

皮膚・排泄ケアの看護対象は、主に褥瘡・人工肛門・失禁などの排泄に関することです。今回は、人工肛門・ぼうこうのケアを中心に紹介いたします。



患者に人工肛門・ぼうこうのケア説明を行う看護師

人工肛門・ぼうこうは排泄を自分でコントロールできないので便や尿の出口周囲の皮膚に粘着剤のついた袋を取り付け、便・尿を溜め、適宜トイレで処理します。人工肛門・ぼうこうを造設する人への支援は、手術前から始まります。人工肛門・ぼうこうでの生活に対するさまざまな不安についてや手術後

の生活などの説明を行います。手術後の排せつ方法は変わりますが、手術前とほとんど変わらない生活ができるよう管理方法を支援します。また、自分で管理することが難しい場合は、介護事業所の訪問看護師などと連携を取りながら支援していきます。

### がん性疼痛看護認定看護師

がん性疼痛看護認定看護師は、主にがんに伴う痛みを看護します。がんは、痛いというイメージがありますが、現在はさまざまな種類の医療用麻薬（鎮痛剤）があり、組み合わせることで痛みを和らげることができるようになりました。

しかし、薬だけに頼ると薬の量が多くなったり副作用で困ったりすることがあります。個々の患者の生活を総合的に捉え、どのくらいの痛みであれば仕事や睡眠、趣味など生活に支障がないかを患者や家族、医師、薬剤師などと話し合いながら薬の飲み方などを考えていきます。

よくある相談は次の通りです。

### 痛みの相談を受ける看護師



▽医療用麻薬は「いざいざ」効果なくならず「いざいざ」医療用麻薬は、状況に応じて種類や量を変えていくため、効かなくなることはありません。医療用麻薬を使うということは、末期ということですか。これは、末期がんに使用していましたが、現在は早期から使用します。少量から使用できる医療用麻薬も増えてきています。

### 認知症看護認定看護師

認知症やその疑いのある人が入院すると、身体疾患からの影響や環境の変化などにより、せん妄や認知症の症状が悪化することがあり、治療や入院生活の継続に影響を及ぼすことがあります。



認知症予防の体操講座

認知症看護認定看護師は、できる限りせん妄や認知症の悪化を予防し、認知症の人が安心して治療や入院生活を送ることができるように、看護師や医師、薬剤師、公認心理師、作業療法士など多職種と連携しています。

認知症は、「もの忘れ」だけでなく、脳の機能低下により、さまざまな場面で生活が難しくなる症状です。そのため、入院して初めて認知症に気付くことがあります。そのような場合は、家族を含め多職種で住み慣れた場所に帰るためにはどのような生活への支援が必要かを話し合い、関係機関につなげていきます。